

ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	絶滅危惧 I 類	
(環境省:準絶滅危惧)		シソ科	
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	<p>写真(箕浦博之)</p> 	
形態の特徴	茎は軟弱であるが直立し、高さ15-50cmになる1年草。茎の中段付近で多数分枝する。葉は線形で、3-6枚ずつ輪生する。花期は8-10月、茎頂と枝先に直立した花穂を出し、白色または淡紅色の小花を多数つける。		
生態的特徴	水田や低湿地に生える。		
分布状況	本州～九州、奄美(徳之島)、朝鮮、中国～東南アジアに広く分布する。県内では県南の南部に生育する。		
減少要因	本種の分布域は県南の南部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)		

文責:佐藤和良